

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 3 日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700285		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	グループホーム えみな		
所在地	岩見沢市南町8条1丁目4番8号 (電話) 0126-20-1310		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】 (平成22年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人,	常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費11,000 円 暖房費(11~4月) 6,000 円
敷金	有() (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (1月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	0 名	要介護 2	1 名
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.8 歳	最低 80 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東町ファミリークリニック、松藤医院、ハタテ歯科、鍵谷歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは以前社員寮であった建物を改造し1階の一部をデイサービスとして利用しています。随所に高齢者に利用しやすいような工夫を凝らした家庭的な雰囲気のある建物になっています。利用者の多くは日中を居間で集い楽しく暮らしています。ホームの車で外出の機会も多く、職員同行の散歩も頻繁に行なわれています。利用者に日々充実した生活をしていただくという運営者の思いを職員全員が共有し、穏やかに暮らせるよう安心したケアが受けられるグループホームです。職員は研修受講の機会も多く、人材教育を積極的に応援しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善課題の「地域密着型の理念」「運営推進会議を活かした取り組み」は引き続きの課題としていますが、「評価の意義と活用」「同業者との交流」「災害対策」は改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価に取り組み、管理者が集約し作成されています。職員は、自己評価や外部評価の目的や意味を理解しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議に地域包括センターの出席が見られなく、出席の依頼をしても難しいようですが、運営推進会議での重要なメンバーである地域包括センターからも積極的な意見をいただけるよう、出席要請の取り組みについて継続することを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族への通信にホーム便りと健康管理記録を送付しています。利用者の生活状況に加え、身体状況も確認することができますので家族の安心に繋がっています。家族からの意見は来訪時や、毎月の利用料金の清算時にホームに来ていただき、その時に話をする時間を設けて、意見を聞きやすい場を設けています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会行事には利用者と職員が積極的に参加しています。町内会とホームで合同の夏祭りを開催し、多くの住民の方々が参加しています。近隣の方々から野菜や花の提供があり、良好な関係を築いています。今後も積極的に地域住民と関わりを持つことを検討しています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員毎の個人理念はホーム内に掲示されていて、目標に向けて日々のケアの中で実践されていますが、ホームとしての理念が確立されていません。	○	職員の理念がホームの理念であるとのことですので、その理念を地域密着型サービスとして集約し作り上げ、ホーム理念として検討することを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員の個人理念は、廊下の見やすい部分に掲示されています。日々のケアで、理念に沿ったことが実行出来ているかを確認しながら取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会と合同の夏祭りを開催して地域の方々と交流を図っています。近隣住民の方々から野菜や花をいただいたり、散歩の際に声を掛けていただいています。町内会の行事には利用者と一緒に積極的に参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が参加し作成しています。前回の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についても改善に取り組んでいることが確認できます。		

岩見沢市 グループホーム えみな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事を利用して、同日に運営推進会議を定期的で開催していますが、包括支援センターの出席がなく、また地域住民の方々の参加も不十分です。	○	毎回同じメンバーにならないよう、地域住民の方々や地域包括センターの参加を積極的に促し、会議をより充実したものにすることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の保健福祉部や保護課とホームや利用者の現状説明や相談をしています。今後も積極的に情報交換を行なう方針です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に生活状況の報告や受診報告をしています。毎月発送しているホーム便りと一緒に個人別の健康管理記録も利用者の身体状況が分かるように報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に積極的に話しかけ、家族の意見を聞くようにしています。毎月の利用料をホームに持参していただくようにしているため、その折に出来るだけ話を聞き、意見を運営に反映するようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に対する利用者のダメージを軽減するために、新人職員は利用者に関わりを持つ時間を多くとり、馴染んでいただけるよう努力しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加のほかに、毎月3回の社内研修を実施し、毎回テーマを設定して研修しています。新人職員は早期のスキルアップを図るため新人教育記録をつけて、どの程度達成できたかを確認し、次のステップに進むようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホーム協議会がないため、交流は近隣のグループホームと相互訪問や合同の行事を通して情報交換を行ない交流を図っています。今後も交流相手を増やしていくことを検討しています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や病院への訪問も含めて面談を行ない、見学していただいた上で入居に至っています。ホーム内で一緒に楽しむなど、馴染みの関係が図れるように出来るだけ体験をしていただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を踏まえて接しています。料理の下拵え、片付け、農作業や昔話を教えていただくなど、利用者から学ぶことも多く、職員は、利用者の困難な場面を支えながら、対等な関係で生活をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアでコミュニケーションを図りながら、利用者の思いを把握するようにしています。重度で困難な場合も仕草や発声で見極め、家族からの情報を参考にしながら利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と話し合い、利用者の希望や状態、特徴を検討して具体的な介護計画を作成しています。利用開始から2週間程経過した段階で詳細なサービス計画書を作成し、ケアにあたる職員は介護計画の内容を共有しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月に1度の見直しが行なわれています。健康管理表と日々の生活記録でアセスメントを行ない、家族の希望を取り入れたものを、職員で話し合い、毎回、変更や見直しが行なわれています。利用者に変化が見られた場合は、その都度状況にあった内容に変更しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは訪問理美容やホーム車両での通院の同伴介助、買物や、見舞い、墓参りなどを柔軟に対応しています。系列のデイサービスのレクリエーション活動にも参加し交流を図っています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に話し合い、かかりつけ医を決めていますが、ホームの協力医療機関の他に、従前のかかりつけ医に受診する場合は職員が同伴しています。ホームの協力医療機関も24時間体制が確保されており、内科と歯科の往診診療で適切な医療体制になっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに関する同意書を入居時に取り交わし、終末期が近づいた段階でターミナルケア要望に関する同意書を再度取り交わしています。職員も看取りを経験しており、家族や医師と連携を図りながら、家族や利用者の望む終末期をサポートしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に注意を払っています。個人別ファイルの記入においても尿便等の記載に造語を利用した配慮がみられます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく利用者ペースに合わせた生活支援を行なっています。利用者のペースで起床時間が遅い場合は、朝食は「おにぎり」にすることや、散歩の希望は、できるだけ利用者の体調や希望に合わせた支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の利用者が多いため職員は見守りや食事介助をしながらサポートをしています。食事の下拵えや、味見など利用者の出来る範囲で手伝っていただき、食事の楽しみにつなげています。食事はバランスの取れた彩の豊かな内容です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度の入浴を基本に入浴支援をしています。入浴を拒む利用者には、職員がタイミングをずらし気分を変えて入浴が出来るよう接しています。体調の悪い場合は足浴や清拭で対応する場合があります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活で喜びが持てるように計画しています。正月にはつきたての餅を食べたり、寿司職人を呼んで目の前で握り寿司を食べたり、ホーム行事の外出にも外食を取り入れています。ホーム内でのゲームも楽しみごとになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は出来るだけ散歩したり、戸外に出るようにしています。ホームの外出行事でドライブや買物に回転寿司やバイキングを取り入れています。かかりつけ医への通院もサポートしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のみ夜間は防犯目的で施錠をしますが、利用者のドアには鍵はかけず、いつでも自由に行き来が出来る状況です。		

岩見沢市 グループホーム えみな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立会いの避難訓練の他、ホームの自主訓練も年1回開催しています。消火器使用の実施訓練には近隣住民の方々の参加もあり、救命救急訓練やAEDの受講は職員全員で参加しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事や水分の摂取量が記録されています。食事の献立はバランスの取れた内容になっていますが、カロリー計算がされていないため、利用者に必要なカロリー摂取になっているかを確認する必要があります。	○	市の保健所や病院などで、献立の総カロリーが妥当であるかを確認する必要があります。正しい摂取カロリーで健康管理を続けていくことを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場となっている居間が憩いの場になっています、ソファで日中はお喋りしながら寛いでいます。室内の温度や湿度にも気を配っています。ホーム内は季節に合わせた装飾で生活感や季節感が得られるような工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、個性が尊重され安心して過ごせる場所となっています。遠方からの家族が来て、利用者の部屋で宿泊していく場合もあります。		

※ は、重点項目。